



龍池山大雲院 書院  
大倉喜八郎京都別邸「真葛荘」（伊東忠太設計）

CONTENTS	平成24年度設立記念会・協会賞	2~5
	時代の華一輪	
	「ポタニカル・アート考」	石塚一男 6
	「作品を生む環境、素材・技法、ファンタジー」	信ヶ原良和 7
	「素材と技法への挑戦」	鈴木法明 8
	会員活動レポート	
	「仕事と活動」	長谷川 亨 9
	第179回aacaフォーラム	
	「景観デザインと街づくり」	小泉雅生 10
	文化事業委員会レポート	
	「aaca京都・大山崎地区建物視察会に参加して」	勝尾恵理子 11
	情報文化委員会レポート	
	「石ノ森萬画館再開に何を見る」	高橋圭太郎 12~13
	aaca東日本芸術文化復興支援団体 活動レポート	
	「こどもカメラマンプロジェクト」	大田敏彦 14
	「りょうぜん里山がっこう」	間地紀以子 15
	理事会報告・新入会員・会員の移動・募金のお願い	16

2013年3月

社 団 法 人  
日 本 建 築 美 術 工 芸 協 会



## 平成24年度 設立記念会・協会賞表彰式

開催日：平成24年12月5日（水）午後5時45分～8時30分

場所：建築会館大ホール（東京都港区芝5-26-20）

来賓：文化庁文化芸術文化課 芸術文化調査官 眞住貴子様

指導普及係係長 渡部珠代様

芦原デジタルフォーラム 芦原初子様

（社団）日本建築家協会会長 芦原太郎様（AACAA理事）

（公益社団）日本美術協会 大澤岳彦様

（公益社団）日本工学会 事務局長 四戸靖郷様

出席者 個人会員 47名、法人会員 30名

受賞者・応募者 23名 合計100名

次第 会長挨拶 中島昌信会長

来賓祝辞 眞住貴子芸術文化調査官

表彰式 芦原太郎理事（選考委員長）



中島昌信会長 挨拶

本日はご多用のなか 第24回設立記念会、及び第22回 AACAA賞・第11回芦原義信賞受賞作品表彰式にお集まりいただき、誠に有難うございます。

本日は表彰されます皆様方、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

また、本日は公務ご多用のなか、文化庁芸術文化調査官 眞住貴子様、同じく芸術文化課指導普及係長 渡部珠代様お二人のご出席をいただき、誠にありがとうございます。

協会は昭和63年11月、社団法人として文部大臣 中島源太郎氏より設立許可をいただき、「建築家・美術家・工芸家・その他の人々の連携と協力により、建築に係る芸術的環境の創造と保存を図り、もって我が国文化の向上発展に寄与すること」を目的とし、24年歩んで参りました。

さらに協会の前身であります、任意団体 建築美術工業協会から勘案いたしますと44年の長きにわたります。

この間、日本各地での景観シンポジウム・講演会・展覧会・歴史的建造物・周辺の景観見学会など、多様な企画により社会への振興活動を、理念に合った作品を創造された作者の皆様に対し、AACAA賞・芦原義信賞の授与も回を重ねて参りました。これは協会会員皆様方とご支援頂いたご関係各位皆様方のご尽力とご支援の賜物でございます。ここに深甚なる御礼を申し上げたいと存じます。

昨今の協会を取り巻く環境は、社会の経済状況の低迷により年々厳しくなっております。特に昨年は東日本大震災・原発被害等により、多数の文化財が喪失し、また多くの地域文化活動も停滞するという状況となりました。その中で会員皆様方が被災地で被災地の支援活動をされている事に勇気付けられ、協会からも支援をさせていただきました。

又、新しい事業として「aaca第一回国際コンペティション2012」を実施いたしました。若い芸術家や海外からの応募も含め多数の参加があり成功裏に実施致しました。

来年度は25周年を迎えることとなりますが、制度改革に伴う法人格の変更に併せ、新たな運営体制を構築し活動がさらに活性化するよう準備中であり、この機会に、会員皆様一同と、ご賛同戴ける関係各位の皆様には、さらなるご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。

文化庁 眞住貴子芸術文化調査官 ご挨拶

社団法人 日本建築美術工芸協会 第24回設立記念会及び協会賞表彰式の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、このたび栄えある各賞を受賞されます皆様方に心からお祝い申し上げます。美しくすぐれた文化的環境および芸術的景観を審査対象とする本賞については、回を重ねるごとに評価が高まっているところであり、受賞者の皆様におかれましては、このたびの栄誉を契機に今後ますます充実した活動にまい進されご活躍されることを期待しております。社団法人 日本建築美術工芸協会は、本賞をはじめ、講演会や研修会等の公益活動を通じて、建築美術の発展に大きく貢献されてきました。これもひとえに役員を含め会員の皆様方のご尽力によるものであり、心から敬意を表します。公益法人制度改革の中、各法人には新制度への対応を求められておりますが、会員の皆様の団結により、この制度改革への対応をさらに発展の契機としていただくことをご期待申し上げます。文化芸術は人々が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現して行くうえで不可欠なものです。

先ほども3・11の東日本大震災のことが触れられておりますが、多くの建築家の皆様・芸術家の皆様が被災地で支援活動を行って頂いておりますことを様々に伺っております。あらためてここで御礼を申し上げます。さらなる文化の復興あってこそ本当の復興と思っておりますので、どうぞご協力をお願い申し上げます。そして、我が国の建築美術の発展には、建築家や美術家や工芸家の皆様の自由な発想が欠かせません。本日はお集まりの皆様におかれましては、建築に係る芸術的環境の創造と保存を通じて、引き続き日本の文化力発信にご尽力をいただきますようお願い申し上げます。結びに、本日受賞されます皆様方のさらなるご活躍と、社団法人 日本建築美術工芸協会のなお一層のご発展を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

本日は大変におめでとうございます。

ありがとうございました。



審査総評

選考委員長 芦原太郎

日本建築美術工芸協会 AACAA賞・芦原義信賞は共に景観・街並み・ランドスケープから建築空間やインテリアまでスケールを問わず建築・美術・工芸の力で人々に感動を与える美意識に支えられた環境や空間を創り出した作品に与えられるものであります。AACAA賞と芦原義信賞の違いは、芦原義信賞を新人賞に相当するものとして位置付けている点です。

第22回AACAA賞及び第11回芦原義信賞の審査はまず、AACAA賞31点・芦原義信賞16点の応募作品を書類審査でAACAA賞候補を10点、芦原義信賞候補を4点に絞り現地審査対象作品とした。

現地審査では2人以上の選考委員が現地に赴き設計者や管理者から説明を受け、最終審査会の場にて現地審査の報告を担当委員が行い全員で議論を聞かせ、各受賞作品を決定した。結果は、AACAA賞1点、同優秀賞2点同奨励賞3点、芦原義信賞1点、同優秀賞2点となった。

応募作品は建築が圧倒的に多数を占めているが、建築・美術・工芸に渡るユニークなこの賞の特性を理解して頂いたうえで、来年は多彩な応募作品が寄せられることを期待したい。

景観・街並み・ランドスケープから建築空間や、更にはインテリアまでどのようなスケールのもので、また建築・美術・工芸のどのようなジャンルでも、相互に連携していけば、文化的に豊かな生活が実現してくるはずである。

たしかにルネサンスの時代は建築・彫刻・絵画・工芸がトータルに連携して、様式文化を構成していた。

モダニズム建築にも、彫刻やモダンアートとのコラボレーションが見られたが、どうも最近では相互の関係があまりうまく機能していないようであり、人々の共有財産である公共空間の文化的質を高めていく努力を今一度建築家やアーティストや作家達がして行くことが求められている。

これらの賞を通じて日本建築美術工芸協会は、こうした運動を支援し推進している。

第22回AACAA賞 受賞作品

AACAA賞

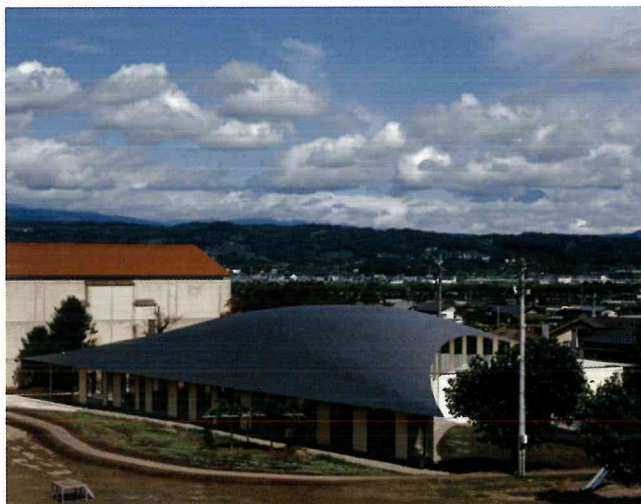
「小布施町立図書館 まちとしょテラソ」

作者：古谷誠章+NASCA

所在地：長野県上高井郡小布施町大字小布施



(撮影 浅川 敏)



AACAA賞・優秀賞

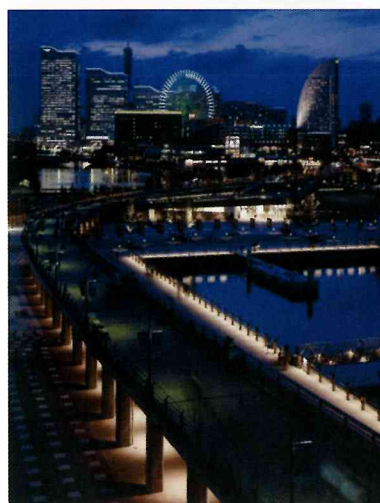
「象の鼻パーク／テラス」

作者：有会社 小泉アトリエ 小泉雅生、  
有限会社 ライトデザイン 東海林弘靖

所在地：神奈川県横浜市中区海岸通



(撮影 DAICI ANO)





(撮影 SHIHO KIMURA)

## 「波動」

作 者： 深田充夫

所在地： 滋賀県東近江市野村町

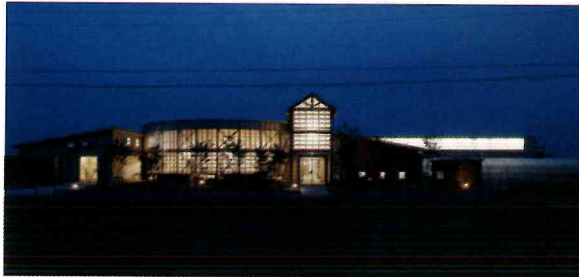


## ACA賞・奨励賞

### 「WOOD ずだじこども園」

作 者： 株式会社 ナウハウス 鈴木幸治

所在地： 静岡県浜松市南区恩地町



(撮影 小林浩志)



(撮影 名執一雄)

### 「発展の塔」

理化学研究所

計算科学研究機構

作 者： 米林雄一

所在地： 兵庫県神戸市中央区港島南町



### 「龍谷ミュージアム」

作 者： 株式会社 日建設計 大阪オフィス 赤木 隆・下坂浩和

所在地： 京都府京都市下京区西中筋通正面下丸屋町



(撮影 東出弘子 松田邦昌)





第11回芦原義信賞 受賞作品

芦原義信賞

「神戸国際中学校・高等学校

作 者：株式会社 竹中工務店 大阪本店設計部 福垣哲朗、中西正佳

河野記念 アルモ二ホール」所在地：兵庫県神戸市須磨区高倉台



(撮影 稲住泰広 母倉和樹)

芦原義信賞 優秀賞

「旧廣盛酒造所再生計画」

作 者：株式会社TYRANT 松葉邦彦

寺戸巽海構造計画工房 寺戸巽海

福島慶介 (N合同会社)

所在地：群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町王子原



(撮影 広川智基)

「S | A豊洲プライムスクエア」

作 者：清水建設株式会社 牧住敏幸 大藤大介 池田真哉

フィールドフォー・デザインオフィス 代田哲也

所在地：東京都江東区豊洲



(撮影 島尾 望)



「ボタニカル・アート考」



石塚一男  
美術家

日本美術家連盟会員  
水彩花譜協会代表  
サロン・フラン現代美術協会委員  
日本建築美術工芸協会会員

ボタニカル・アートとは一般的には一目でわかる写実の原点を踏まえた植物画いわゆる花の絵ですが、単なるリアルな植物の肖像画と言うばかりではなく、その植物を通して個体のもつ自然である事と、如何に繋がろうとするかと言う事でもあり、自然科学の目で把握された植物の生態にどこまでも添い、自然を科学する事と共にありながら、絵画的に表現されたリアリズムの事だと言えます。もちろん精密さや正確さの根拠をどこに求めるかによってもその表現には微妙な変化が出ます。

一世を風靡したとも言われているバラのルドゥーテはボタニカル・アートの画家の中でも代表的な植物画の第一人者です。その技法は彫版師によるエッチングに似た篆刻による銅版画の完成度と非常に深く係わりを持っています。銅版の上に点を打っていくという大変単純にして実に複雑な絵画表現を下敷きにして、その上に彩色されたものです。下地の点によるグラデーションがどれ程色彩に影響を及ぼすか計り知れない、また上に塗る色彩の水の量やその濃度が下地があるでもなく無いでもなくと言った具合にエッチングを感じさせず実のみごとなそれぞれのバラの表現になっています。

この植物画と言うものは、特に繊細で多彩な表現方法を用いての画面構成があり、短時日での技術習得にはかなり難しいものがあるが、根気よくただひたすらに描き続ける事で技術も表現もいつか身につく事になります。

資料にあります私の絵は土佐麻紙に透明水彩で輪郭をとらずに直接描いたものです。数十年描いて来てまだまだまだ先の見えない表現の幅と奥深さを、当時とはかなり違う現代の自然の中に感じています。

現代の植物画には現代のコンテンツがあり、さまざまなボタニカル・アーティスト達の手法で往時より格段に増え続けた植物画が描き続けられているが、往々にして植物の全貌を表現し得ているか否かの危惧があることは否めません。人間は自分達がいかなる状況に置かれようとも利便性を追求せずにはいられない宿命を持っている様で、利便性は一見人間生活を豊かに見せる大変魅力的なものだが、人間の内なる自然と外なる自然の歯車を微妙に狂わせて自然であろうとする事から、私達を少しずつ遠ざけています。利便性が自然を損なうと言う事を以前私は武道の師範から合気の稽古を通して学んだ事があります。自然に立つと言う立ち方から既に不自然になっている事も実感した次第で何事につけてもその不自然があまり気にならなくなってしまっています。

消毒や薬に依存する事で丈夫に育った、見た目に健康優良的な花が本当に美しいといえるのだろうか、そんな事の是非を嗅ぎ分ける感覚こそが内なる自然であったはずなのに。自然である事の復権と人間の鈍くなった感性への危機を忘れ無い様に、これからも植物を栽培しながら私なりにボタニカル・アートの領域を広げていこうと考えております。



ノウゼンカズラ

バラ



パンジー





「作品を生む環境、素材・技法、ファンタジー」



信ヶ原良和  
彫刻家

日本美術家連盟会員  
日本建築美術工芸協会会員

環境からの思い

海・山・川などの自然風景を見るのが好きで幼い頃からよく旅をし、今から思えば水の有る景色が好きでした。私は1986年に京都南部の山に囲まれた自然豊かな所にアトリエを持ち、創作活動し暮らしています。

この辺りには大・小の川そして大きなダムが有り、車で少し走ると琵琶湖もあります。期せずして10数年前からは、琵琶湖の傍の大学で造形関連の仕事をする事になりました。ですので、常に周りの山々の景色や雲の動きを見たり湖や川の水面の輝きに見入ったりしながらその場その時に持つ感情・想いを、作品にダイレクトにも取り入れる事を考えながら造形と向き合い作り続けて来ました。この様な環境で創作活動している事も有り「水との関わり」をテーマにする事は自然な成り行きだった様に思います。水と一概に言っても様々な表情を持っており、穏やかさ・やさしさ・荒々しさなど、その時々季節やお天気等によっても一変します。そして水の有る景色には必ず植物・生物が存在します。そんな様々な生き物にも多感になりながら、環境・季節感を大事にした造形を考えています。

素材とオリジナルな技法へのこだわり

短大を出て20歳後半に鉄・ステンレスを扱う京都の製作所に4年近く勤め、そこで金属素材の組立・溶接・グラインダー掛け・手ヤスリ仕上げ等の制作技術を覚えました。やはり卒業してから働きながら覚えた技術のおかげで今が有るなあとつくづく思います。そしてこの製作所で覚えたアルゴン溶接（TIG溶接）が私の造形の方向性を決めました。この溶接法はあらゆる金属に適用出来、主にステンレスやアルミニウムなど非鉄金属の溶接に用います。私はこの溶接法を使って鉄・ステン・アルミ・真鍮・チタン等で作品を作りましたが、鉄とステンレスの相性の良さを確認しながら鉄とステンレスを溶接した作品も多く作りました。その事により鉄錆とステン鏡面の組み合わせも可能にし、ステンレス薄板をバーナーで焼いてベコベコな状態にしてから磨き直して使う技法も考えました。この技法を使う事により「水への思い」の表現に役立ちました。作品の多くは野外に置く事を想定していたので、陽の光を浴びて水面が輝くイメージを持たすのに効果的でした。その中には池や湖に流れない様に仕掛けをして、ステンレスを水面に浮かべた作品も有ります。この様に水をテーマにした金属作品が多い事にも、20歳代にあの製作所で働いた事が影響しています。

ファンタジーへの誘い

そんな環境からの感性と素材・技法を駆使して、私が見る頭に描く「空想・幻想の世界」を造形物で表現したい。絵本の挿絵を見る感覚で物語を想像して貰える様なファンタジーを感じる造形物を探求し、大人から子供まで(特に子供)が絵本を見る様に作品に接して貰えればと願っています。ですので作品を考える際にもその作品に物語を作り(長編・短編様々)、その物語の一場面を挿絵風に作る事を心がけプランを立て制作しています。私なりのファンタジーで表現した自然賛歌です。



1992年  
「宙」

H160×W330×D190cm 鉄・ステンレス



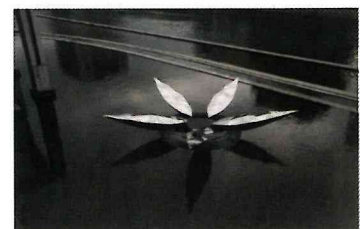
1998年  
「浮(光)草」

H10×W240×D190cm ステンレス・てぐす



2006年  
「煌々一隙」

H260×W160×D160cm 鉄・ステンレス



2007年  
「水の光景一花と礁」

H90×W420×D410cm ステンレス・鉄



「 素材と技法への挑戦 」



鈴木法明  
彫刻家

日本美術家連盟会員  
日本建築美術工芸協会会員

素材と技法への挑戦

私は独学で彫刻を制作していましたが、1985年に故淀井敏夫先生(文化勲章受賞者)に出逢い、助手としてお手伝いさせて頂くことになり、彫刻制作に必要な技法や色々な作家の作品について、学ぶことが出来るようになりました。先生の代表的な制作技法は木材や金属等で始めに骨格を組立て、そこに木片を継ぎ足しながら確りとしたフォルム作りをし、麻の繊維をハサミで短く切り水と石膏を混合して、確りとした骨格に石膏を直付けさせながらモデリングする技法です。そこで私は直付けするときに水で溶かした石膏も、溶接時に金属がどろどろに溶けるのも、同一状態ではないかと思ったのが「ヒント」となり、自分流の溶接による彫刻制作を始めました。さらに素材の異なった金属、例えば鉄とステンレス、チタンとステンレス、銅とステンレスのように異質的な素材によるコンポジションにも試みたところ、金属が互いにその特徴を表現してくれることにも感動するとともに、鍛金、鍛造の技法と溶接による技法とを組合せた作品を試行錯誤しながら制作してきました。

今日までに制作した作品の紹介及び素材と技法について説明させていただきます。

・題名「波と太陽」

H300cm  
W400cm  
D 80cm  
重量 1.5t



素材は厚さ3mm~20mmの板材で、チタン・ステンレス・真鍮・赤銅・青銅・鉄の6種類の特徴を活かしながら構成しています。技法としては鍛金・鍛造・溶接と自身による200トン油圧プレスにより、一つ一つのパーツをデフォルメしながら構成した壁面レリーフです。

・題名「お兄ちゃんと一緒に」素材は厚さ3mm~9mmのステンレス(304)とチタンで制作方法としては、始めに骨格を確りとステンレスの角材で形成し、顔や頭部等はステンレスの板材を炉やガスバーナーで焼き鈍しながら鍛金の技法で当て金とハンマーにより形成するとともに、手や指など部分的なところはステンレスの角材等を鍛造の技法により形成し、人体のフォルムが確りと仕上がったら細く切断したチタンの板材や棒材等を、フォルムに貼付ける状態で溶接していくと石膏の直付けと略同一的なタッチに表現されます。

題名「出会う(meet,with)」素材はチタンで厚さ3mm~6mmの板材を使用し、制作方法は前記と略同じ方法で構成しオールチタン材使用ですから大きくても重量は比較的軽く仕上がっています。また表面全体がチタン特有の酸化被膜(カラーチタンと同様)により色彩を様施せるのも魅了される原因のひとつではないかと思えます。

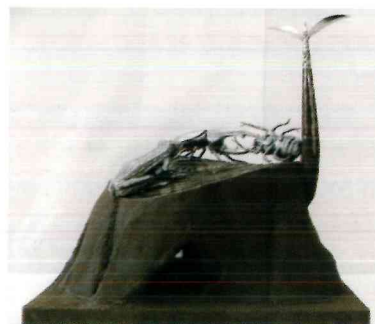
H160cm  
W340cm  
D160cm  
重量 280kg



題名「土俵の蛙」素材はステンレス(304)と耐候性鋼に自然錆付けを施したもので、制作方法は鍛金・鍛造・溶接による作品です。この小作品の制作意図を一寸説明させて頂きますと、私も子供の頃から日本の国技のような大相撲が大好きでしたが、最近は相撲業界でもグローバルになり強い力士は外国人力士に多く、日本人力士との取り組みで観るに耐え難いこともあります。

作品は切り株の土俵の上で日本のカブト虫と外来種(ハラクレス)との勝負に、蛙が行司となって感情に動かされることなく、落ち着いていて物事に動じない日本の武士道の精神を備え、勝負を見詰めている情景を表現してみました。

H60cm  
W50cm  
D50cm  
重量 35kg



兄ちゃんと一緒に  
H550cm  
W120cm  
D120cm  
重量 250kg



## 「仕事と活動」



長谷川 亨  
建築家

(有)長谷川亨建築設計事務所代表  
日本建築美術工芸協会会員

### □ 宮城県石巻市の仕事

#### ・視察

平成23年5月6・7日、被害の大きかった宮城県石巻市を訪ねた。市街地は主に旧北上川河口に広がっている。

市の高台に位置する日和山(ひよりやま)公園へ向かう、そこから石巻市街が一望できる(写真1)。一面がれきの山、津波で被災した箇所と残った箇所がはっきりと識別できる。

その後、港方面へ車を走らす。地盤が80cmほど沈下、いまだに水の引かない箇所が点在する、本来なら海に浮かんでいるはずの船がビルの上や岸壁に乗り上げている。

建物を見るとかろうじて建っているもの、外壁が剥ぎ取られ柱脚からもぎ取られたものまである。木造建物は基礎だけ残り建物は倒壊している。私は建築設計を職能としているが、この状況を目の当たりにして「想定」と「想定外」をまざまざと見せ付けられた気がした。

#### ・仕事

私は東北出身で少しでも復興のお役に立ちたいとの思いもあり、現在は公共施設の耐震補強設計(写真2)や復興住宅の設計を行っています。今後も街づくりへの参加と将来を見届けたいと思っている。



写真1. 石巻市街地



写真2. 石巻市河北総合センター

### □ 宮城県気仙沼市

気仙沼魚町・南町内湾地区復興まちづくり コンペ参加  
・趣旨

気仙沼市の魚町・南町内湾地区は昭和大火後の復興により港や道路など現在の街の骨格や旧魚市場が整備され、船主や廻船問屋の事業所が立ち並び「屋号通り」や「昭和モダン」と呼ばれる港町繁華街の雰囲気を感じる街並みが形成されていて気仙沼らしい港町文化の発信地として役割を果たしてきた。



気仙内湾地区

このような歴史的な背景の中で東日本大震災から、再度立ち上がり、気仙沼市のみならず被災地復興のシンボルとなり、内外の人々が集う賑わいのあるまちづくりが求められる。

提案：まちづくりのコンセプト (H24年3月)

＜地域の歴史や文化の履歴を記憶として継承しつつ、「100年後の未来のまちに向けて前向きに取り組む」ことを基本理念とする。＞

・都市再生 (Innovation) は都市の履歴を記憶として継承し、これから必要とされる新しい機能へと再生させることが不可欠。(図.1)

街づくりの活動・・・シンポジウム協力委員会委員長として企画・運営に携る



弘前城築城400年祭

### ■弘前景観まちづくり

～弘前の文化～建築とまちなみが紡ぐ歴史と未来～



平成23年11月4日 弘前景観まちづくりシンポジウム風景

文化のまち弘前、まちの礎を築いた弘前城が2011年、築城400年の節目を迎えました。まちの中には、弘前城をはじめとした藩政期の町割りや歴史的建造物、明治・大正期の洋風建築、昭和期の近代建築など時代の雰囲気の色濃く漂わせた建築物が、今日の生活環境のなかで息づいています。

この歴史を振り返り、より一層の住みよいまちづくりを目指して、この景観を保存するとともに現代の時代に生きる生活の舞台としてのありよう、そしてこの文化遺産をまちの個性・文化として如何に未来に継承するかを考えることが今、求められています。

弘前市には、いろいろな先人たちの足跡がちりばめられています。仲町伝統的建造物群保存地区や禅林街などには建物が群を成していますが、その他の明治・大正期の洋風建築物は一か所に集まっているのではなく見事に散らばっており、街全体でその空気を醸し出しています。それを一層引き立てながら後輩たちにつないでいくというまちづくり運動を、しなければなりません。一それがこのシンポジウムの表題で「紡(つむ)ぐ」という言葉を使わせていただいた次第なのであります。一

『弘前景観まちづくりシンポジウム 記録誌 抜粋』





「景観デザインと街づくり」



小泉雅生  
建築家  
(有)小泉アトリエ

平成25年2月15日 京橋創生館AGCスタジオにて第179回フォーラムを開催。「景観デザインと街づくり」と題して建築家 小泉雅生氏にご講演いただきました。

第22回AACA賞・優秀賞を受けた「象の鼻パーク/テラス」についてのお話は興味深いものでした。

赤レンガパークと山下公園を結ぶ中間に、象の鼻の形をした横浜港発祥の地があり、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として「象の鼻パーク/テラス」を設計・デザインされたのです。大きな広い空間に赤い屋根のテラス、氏のコンセプトは、シンボルでなく日常的に親しみをもつ街づくり、みんなが集まれる場所づくり、小さなものを集めて包容力のある大きな風景をつくりたいという考えだと伺いました。



「象の鼻パーク」は子供たちの歓声の響く昼間とは別の幻想的空間になる夜の顔をもっていてその輝きは目を見張ります。照明デザイナー東海林弘靖氏との共同設計で仕上がりました。「象の鼻」中央部分から曲線を描き小・中・大の69枚のスクリーンパネルが点灯して、ブルーライトヨコハマとなり恋人たちの世界が始まります。時間によって金色、セピア色に変わります。映像でみますと幻想そのものです。座りたくなくなるような恋人たちのベンチも設置されていて人はみんな優しい気持ちになれるのかなと想像いたしました。



遊歩道からテラス方向

夜景

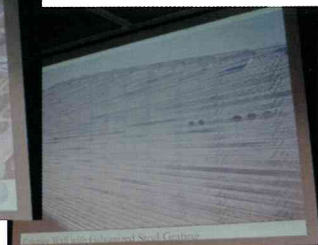


その他の建築事例として鴻巣市文化センターの特徴的な迷彩模様、戸田市立芦原小学校の心のよりどころとなる親しみのある建築、また、黄金町新スタジオでは再開発でなく市民が自然に参加し求心力となって変わりました。

小泉雅生氏はじめ多くの建築家が参加している素晴らしいプロジェクトです。戦後の黄金町、日の出町のイメージは全く変わったのです。



「鴻巣市文化センター」



「戸田市立芦原小学校」



「黄金町新スタジオ」



小泉雅生氏は建築に夢と希望を託し、また人びとへの限りない優しさをもって「景観デザインと街づくり」を完成されたのです。



講演会終了後、隣に席を移し、ワイン・チーズ・カナッペ・果物でミニパーティをしました。参加者40人近い中でほとんどの方が残られパーティに出てくださいったことにフォーラム委員会一同感激いたしました。

(文責 村松勢津子)



## 第7回「acca京都・大山崎地区建物視察会」に参加して



勝尾恵理子  
通訳案内士  
全日本通訳案内士連盟（JFG）

開催日：平成24年11月9日（金）・10日（土）  
参加者：33名

初日の9日は、京都駅からバスにて京都地区視察出発。

- ・大雲院・祇園閣（伊東忠太設計/大倉土木/国登録有形文化財・1927年竣工・特別公開）を見学。大雲院で全体説明の後、元財閥大倉喜八郎男爵の90歳の記念に建てられた祇園祭の山鉾を模した、祇園閣内部を見学。入口では観音開きの扉に描かれた鶴（大倉男爵の化身）が出迎えてくれ、阿弥陀如来像や極楽浄土を思わせる見事な壁画を見ながら閣上に昇り、京都一美しいと言われる見事な東山の紅葉を眺める。鉾先から羽ばたこうとしていた金鶴は、大倉喜八郎男爵を表しているとのこと。敷地内にある八角形の伊東忠太設計の書院（大倉家京都別邸「真葛荘」）もとても美しかった。唯々有り難く、一期一会の出会いに思わず合掌。
- ・西本願寺伝道院（伊東忠太設計/竹中工務店・1912年竣工）・龍谷ミュージアム（日建 赤木 隆設計/2010年竣工）伝道院の外観を見学。威厳のある建物の周囲を忠太特有の石造の怪物がぐるりと囲んでいて可愛らしかった。龍谷大学の博物館である龍谷ミュージアムは自由見学。露地に見立てた経路空間を表すデザインが街並みと見事に調和してとても美しかった。
- ・京都水族館（東洋設計・大成建設/2011年竣工）梅小路公園内に2012年3月に開業したばかりの日本初の完全な人口海水利用型水族館。源流から海にいたるつながりと多くの命が共生する生態系再現。今回参加者である作家・石井春さんによるアートワークの案内と榊原茂館長の館内説明。ポルトガルの工房で焼いたという色鮮やかなタイルアートがとても美しく調和している。建築と魚とアートと日本庭園が見事にコラボした京都の新名所。ぜひ多くの人に紹介したい。
- ・虎屋京都ギャラリー（内藤廣建築設計/鹿島建設・2009年竣工）1628年以前から京都御所近くに虎屋が店を構えていた歴史ある土地。素晴らしいコレクション展示ギャラリー・お稲荷様・江戸時代の東蔵・水盤のある中庭を見学ののち、お茶をしながら贅沢な建築空間を味わった。
- ・堀木エリ子&アソシエイツショールーム和紙デザイナー堀木エリ子さんのショールーム見学。和紙と照明でデモンストレーション解説の後、宝塚のスターのようなカリスマオーラを発しながら堀木さんが登場され質疑応答。和紙の奥深さ、素晴らしさを再発見。夕食は、京大生御用達の「串八」で夕食・懇談会で盛り上がり、ホテルギンモンドに宿泊。



龍池山・大雲院本堂にて

翌日10日は、徒歩にて大山崎地区の建物を視察。

- ・野村邸茶室（藤井厚二設計/大工・酒得金之助・1930年頃竣工・特別公開）を見学。松隈章氏の解説で洗練された豊かな内部空間を体験した。とても有り難い時間を過ごすことが出来た。
- ・大山崎ふるさとセンター 千利休「待庵」原寸大の再現茶室等館内展示を見学し、大山崎地区の歴史を学ぶ。
- ・サントリー山崎蒸留所（安井建築設計事務所/三和建設・1958年竣工）水の美しさで有名な天王山山裾に建つウィスキー蒸留所。製造過程見学の後試飲。とても美味しかった。
- ・聴竹居（藤井厚二設計/大工・酒得金之助・1928年竣工）環境共生住宅の原点である藤井厚二自邸。荻野氏と松隈章氏の解説で聴竹居見学。包装も美しく美味しい聴竹居弁当をいただく。聴竹居の豊かな建築空間を満喫しながら、贅沢なランチタイムを過ごすことが出来た。
- ・アサヒビール大山崎山荘美術館（加賀正太郎設計・国登録有形文化財）関西の実業家・加賀正太郎の邸宅として、本人設計の英国風の山荘をアサヒビール（株）が、京都府・大山崎町と復元整備した後、1996年アサヒビール大山崎山荘美術館として開館。安藤忠雄設計の「地中宝石箱」「夢の箱」も見学。本館2階テラスから眺める津川・宇治川・桂川が合流する、山崎の紅葉景色が絶景。季節の庭園を散策しながら山崎駅へ。駅にて解散、各自帰路へついた。

私たちは、京都駅前地下街ボルタプラザにある石井春さんのタイルアートを案内していただいた。とても楽しく素敵で幸せな気持ちになった。

秋の京都で、建築・アート関係者の参加者の皆さんと一緒に楽しく建物を視察させていただき、多くを学ぶ事が出来ました。周到な準備をして下さったスタッフの皆様、参加者の皆様に心から感謝いたします。



## 「石ノ森萬画館再開に何を見る」



高橋圭太郎  
織部製陶株式会社  
日本建築美術工芸協会会員

東日本大震災から1年余りの2012年6月…情報文化委員会では、『日本建築美術工芸協会（aaca）としての震災支援』をテーマに議論が成されました。それは個々の立ち位置や協会の活動を再確認する作業でもありました。

これまでも会員企業の活動を文化の面から取材し、ホームページやメールマガジンで紹介するなど、aacaの理念に沿った情報発信を試みてきましたが、1歩進めて「会員として独自の目線で事実を見極め、何を感じるか、何を伝えていけるのか…を模索してみよう」との意見の一致をみました。取り分け、今回のような千年に一度といわれる激震災害の直後には、衣食住とインフラ整備が最優先とされます。「集客性の高い建築や文化を継承するものに対して修復や保全は後回しとされているのでは？」  
「本来一番大切なはずの被災当事者達の、心のケアや生きることへの希望を見出せる活動は、遅れているのでは？」との意見が交わされました。



被災後 旧北上川 中州（中央 石ノ森萬画館）

瓦礫の山といつ終わるとも判らない余震。津波の恐怖に加えて放射能の恐れもが加わった現地。ともすると殺伐となりがちな被災地の老若男女の心を癒す事こそが、今求められています。“心の復興”に目を向け、共感できる活動にフォーカスし、広く世の中に紹介していく事こそが文化的支援として我々ができる活動ではないのか…という結論が徐々に見えてきた会議となりました。

そうした中、テレビCMやマスコミ媒体で再三目にする一つの建物がありました。それが『石ノ森萬画館』です。

私が初めて萬画館を訪れたのは、2012年4月のまだ肌寒い頃。低く重い雨雲が空一面を塗りつぶし、雨に濡れた楕円型の館は無機質で重苦しく、人気の無い寂しさの塊の様に目に映りました。

仮面ライダーやサイボーグ009の作者として絶大なる知名度を誇る石ノ森草太郎氏。子どもの頃から慣れ親しんできたのですが、その描く世界観には常に「自然と科学」学「人間と戦争」などの普遍的命題があり、「人類の過剰なまでの発展への欲望に対する警鐘」「自然への畏怖」といったものが根底にあります。目の前にはまさに其れをなぞった風景で現代科学の粋を集め作られた建築に、津波という自然の脅威がまさに激突した場面を示しているようです。



『石ノ森萬画館』は、石巻市内を流れる旧北上川の中瀬に位置し、石ノ森草太郎氏の作品をテーマに、石巻市と支援する市民の手により2001年に開館した、マンガテーマ館です。開館より10年、年間約20万人もの来訪者を迎える萬画館は、運営する第三セクターTMO「株式会社街づくりまんぼう」の活動とともに、周辺の商店街とも連動させた独自の“街おこし”中核的施設としても高い評価を得てきました。

3月11日に発生した東日本大震災では、津波を受けて被災。一階部分は浸水し大きな被害を受けました。しかし流されてきた45名もの人達が、5日間耐え忍ぶことができたことから、「津波避難ビル」という防災機能を再評価されました。閉館中にもかかわらず全国から訪ねて来たファンの方々が記した仮設フェンスへの寄せ書きメッセージやネット上での励ましなども、多くの媒体で報道され、マンガファン以外の人たちの注目も集めるところとなりました。その後、石巻市が捻出した6億円の復旧予算と多くの義援金や寄付金を集めた計7億5千万円の復興予算が当てられ、昨年(2012)11月17日再オープン。震災復興を印象づける象徴的施設として大きなニュースとなりました。同時に、何故「萬画館」をいち早く再オープンするのか、他にも優先されるべき予算執行が有るのでは？、といった批判の対象ともなっています。

このような市民感情も踏まえて「萬画館」は何故人々の興味と関心を集めるのか…？ 委員の関心事も少しづつ固まってきたのでした。

まずは現地に行って、自分たちの目で見て関係者の話を聞こうと、時間の遣繰りをつけた5名が昨年(2012)11月25～26日石巻に向かいました。

復興作業でお忙しい中、取材に応じてくださったのは、石巻市産業観光課。そして萬画館を運営する「株式会社街づくりまんぼう」の方々。



萬画館を取り巻く環境。再オープンに至るまでの経緯や試練。石巻市の置かれている状況などを話していただきました。

また本年(2013)1月、萬画館の設計者でもある㈱日本設計・黒木正郎氏からもお話を伺い、建築に関するコンセプトや石ノ森先生とのエピソードなども伺うことができました。

さらに、時間の許す限り、石巻市に暮らす人々や周辺に伝わる伝承・文化にも目を向けようと、東京駅にも使われた雄勝スレート瓦を扱っていらっしゃる四倉製瓦工業所。

大宮町の伊去波夜和氣命(いこはやわきみこと)神社にも取材をさせていただきました。

牡鹿半島にある特有の隆起地層が、硯やスレート瓦を生み出してきたことや、地域の神社が綿々と受け継いできた津波に対する伝承、また3・11当日の様子など詳しくお話を聞くことができました。

近隣には津波で大きな被害を受けた大川小学校もあり、地域が受けた傷の深さが、いかに深刻なものであったか、という片鱗も垣間見ることができました。

情報文化委員会は、これらの取材を基にホームページにて複数回の特集を考え、皆様に発信して行きたいと思っております。また、関係者によるトークや討論会も現在検討中です。

たくさんの関心や情報を被災地に向け続けること(継続)…それが、情報文化委員会が導き出した息の長い復興支援の一つの答えといえるかもしれません。



萬画館 内部



被災した 雄勝硯伝統産業会館



取材メンバー



伊去波夜和氣命神社



JR 石巻駅 外観



津波により破壊された市街地







## 「見えない におわない不安から、、、」 りょうぜん里山がっこう



間地紀以子  
造形作家

NPO法人  
子どもの造形美術と学びを考える会理事  
日本建築美術工芸協会会員

福島第1原子力発電所から40kmほど北西の静かな山里に、廃校となった中学校を利用して「NPO法人りょうぜん里山がっこう」があります。里山の保全と地域活性化を掲げて開校以来10年間活動しておりましたが、2011年3月11日を期に「放射能から子供を守り、地域の食と人々の絆を再生しよう」とテーマが絞られました。

メインの活動のひとつである子供保養キャンプは、大気・土壌・食品などの放射能汚染から子供を守るために山形、長野、新潟、東京の各地で継続的に行われており、数日から数週間を汚染のない自然の中でのびのびと過ごし元気になって戻って来る子供の数は延べ300人を超えました。一時的な保養だけでなく何時でも誰でも利用できる保養施設を目指してフクシマ・佐渡支援事業として佐渡島中央部の集落の古民家を改修中です。

この施設では「暮らし」というツールを使って、様々な生活シーンでの交流を大切に、お互いを知り思いやり「放射能に負けない生き抜く基本の力」を育み、大人も子供も安らげる空間を作りたいと考えています。

また、今年度より放射能測定器を購入し、近隣住民から持ち込まれる野菜や土壌の測定を行い、除染相談や健康相談も行われています。これらの他に米粉パン工房、体操教室、健康マージャン、歌声カフェ、ふれあいサロンなどがあり、校舎2階の里山ギャラリーでは県内外の作家の絵画、彫刻、工芸作品の展示やワークショップ、また地元コレクターの収集作品の展示なども行われています。学校敷地内の宿泊施設「ほっこり」は東北、フクシマの支援活動の拠点として岡山・兵庫・京都・愛知・長野・神奈川・東京・山形など各地の団体、個人に利用されています。

秋から冬にかけて開催されたイベントのいくつかを紹介しましょう。11月25日「いのちの大根まつり」では「出会いと野菜に感謝し放射能からいのちを守ろう」と、百姓市（白菜、大根抱え放題500円）や、放射能よろず相談、足湯、歌声カフェ、竹笛づくり、大根カレーなどのお楽しみがあり、この中で「手をつなぎ地球をつつもう」アートアクション（指導・間地紀以子）の共同制作が行われ、小学生からお年寄りまで30名程が参加、スチロール、ダンボール、布、紙、糸など身の周りのものを使って200体あまりの人型を作り、直径2mのリング4個に取り付け、手をつないで地球をつつむ様を表現、校舎内のホールや集会場に展示しました。初めてのスチロールカッターに真剣な表情の子供、連れてきた子供を忘れて制作に熱中するお母さん、

健康相談に来たお年寄りが参加するなど、思いがけないアートアクションに自分だけの人型を表現し、熱いひと時を過ごし完成を喜びあいました。

12月2日には冬の保養キャンプ「ほよ〜ん相談会」があり、中長期の保養から親子キャンプ、ホームステイ、将来の生活相談など、3・11受入全国協議会の共催で県内外から多くの参加者がありました。

この他に12月から翌年3月まで、体内からセシウムの排出を促す「発酵食料理教室」も行われています。

東日本大震災は語り尽くせないほどの激変を人々に強いましたが、目に見えない、におわない不安に覆われたフクシマの心は、今も、これからも晴れる事はありません。

私のアトリエから30分ほどの静かな田園地帯、春の芽吹き、秋の紅葉の美しい霊山の麓、りょうぜん里山がっこうと係わりつつ、原発から遠く離れてはいるけれど放射能の影におびえるフクシマを見つめていきたいと考えています。



アートアクション制作中



手を繋いで地球をつつもう



佐渡保養キャンプ



佐渡保養キャンプ



大根まつり



## 平成24年度 理事会

### 第三回理事会

平成24年1月31日 16時～18時

会 場 日比谷松本楼会議室

出 席

理事 12名・幹事 1名

欠 席

理事 8名(委任状提出)・幹事 1名

報告：以下の案件について報告され承認された。

- ・aaca国際コンペティション2012」の実施報告、
- ・第22回AACA賞・第11回芦原義信賞の実施報告、
- ・24年度設立記念会の実施報告、

議事：以下の案件について審議され決議された。

- ・専務理事に岩井光男常務理事、常務理事に岡 房信理事の就任。
- ・設立25年記念シンポジウム「ニュー歌舞伎座」の開催、
- ・25年度事業計画と協会組織の改定、
- ・設立25年記念シンポジウム「ニュー歌舞伎座」の開催、

### 第四回理事会

平成24年2月20日 17時30分～19時

会 場 建築会館会議室

出 席

理事 9名・幹事 1名

欠 席

理事 11名(委任状提出)・幹事 1名

報告：以下の案件について報告され承認された。

- ・平成24年度2月末会費納付状況、
- ・新年役員・委員会交流会実施報告、

議事：以下の案件について審議され決議された。

- ・25年度会費請求手続きと長期会費滞納会員への対応、
- ・25年度組織改定に伴う責任理事と関係理事の委嘱、
- ・25年度予算総会 開催案内・議案書、
- ・事務所賃貸借契約の変更、
- ・25年度 AACA賞ポスター、会員展の開催、

## 新入会員・会員の移動

(2012年11月～2013年2月 敬称略)

### 会員の移動

#### 個人会員

古城 眞

個人住所変更

〒810-0044 福岡県福岡市中央区六本松 4-8-14-303

鈴木木明

個人住所変更

〒334-0002 埼玉県鳩ヶ谷市本町 3-14-10-304

千葉 学

勤務先住所変更

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 3-1-15 神宮前 I Kビル 3F

(株)千葉学建築設計事務所 (有)→(株)

## 東日本大震災 「芸術環境復興預金」へ募金のお願い

24年度寄付金(2月末現在)  
43,279円

ゆうちょ銀行 港芝五 当座預金

口座名： AACA芸術環境復興預金口

店番： 〇一九 口座番号： 〇338383

### 会員投稿記事 募集中

会員の皆様の

作品紹介、活動報告、  
展覧会、個展等のご案内  
企業の広告、出品展等のご案内を  
会報に掲載いたします。詳しくは  
広報委員会にご相談ください。

会報について

会報へのご意見 ご希望を  
お寄せください。(広報委員会)

発 行 社団法人 日本建築美術工芸協会  
発行人 会長 中島昌信  
〒108-0014  
東京都港区芝5-26-20 建築会館6階  
Tel 03-3457-7998  
Fax 03-3457-1598  
Url http://www.aacajp.com  
E-mail info@aacajp.com

編 集 広報委員会  
委員長 野口 真理  
委 員 飯田 郷介 石田 真人 神谷 ふじ子  
竹生田 正 中村 弘子 山崎 輝子  
事務局 石田真人  
印刷協力 美和野印刷株式会社

